

「旬」を捉えて、「学びたいに」!!

6年生は、家庭科で献立づくりの学習を行っています。献立作りの「プロ」田中先生にゲストティーチャーとして、授業に来ていただいています。その授業でのこと。

子どもたちは、「プロ」から学ぼうとやる気いっぱい。そんな中授業の冒頭で、「みんなは約1060回も給食を食べている。ある意味、みんなもよい献立と違和感のある献立を見抜く『プロ』だね」と話され、受け身になっていた子どもたちを前のめりに。その後、話題の映画「8番出口」を彷彿させる右のスライドを提示し、献立の中に隠された「違和感」を子どもたちが考えたい仕掛けをされていました。あっという間に、子どもたちは知的好奇心を喚起され、「はやく、見せて!!」とやる気いっぱい。圧巻でした。

この授業、去年や来年だったら、同じような子どもたちの反応にはなかったのではないのでしょうか？料理と同じく、まさに「旬」を捉えて、「教えたことを子どもたちが学びたい」ように仕組んでおられるから、どんどん子どもたちは引き込まれていったのだと思います。子どもたちの興味のあること、時代の流れをつかむこと、そして「教師が」ではなく、「子どもが」学びたい授業づくり、学ぶことばかりでした。

こんだての
違和感を探そう！

↑ 献立4
Iwakann



10月22日(水) 授業力向上推進部～4年部の授業をみんなで考えよう～

15:45～各会場で行います。クラブの後ですが、時間通りにスタートさせることができます。ご協力をお願いします。

4年部さんが、南小の代表として多くの時間を使い、準備を下さっています。「より子どもたちが自分事で考える」授業に向けて、気づいたことをどんどん出していただければと思います。みんなで授業について考えること、ワクワクしますね。

会場	参加者
4年1組	組が奇数の担任
4年4組	組が偶数の担任
※専科の先生は、どちらでもいいです。	

授業を見せていただくとき、「どこを見る?」「どう見る?」

「研究だより」と一緒に、資料を配布しています。この資料は、佐々木先生がまとめられたものです。私は「授業がうまくなりたい」という想いをもちながらも、「今日も失敗した」の反省の連続です。授業をうまくなりたいと思った時に、「こんな授業をめざしたい」というモデルを明確に持つこと大切です。そのためにも、他の先生方の授業を見せていただくことは、大きな成長の近道です。しかし、ただなんとなく見ても、力は高まっていきません。

ある時先輩の先生から、「授業を見ている、あなたのチカラ以上のことは見えないのよ。あなたが何を見ようとするか、何を見たいと思ったか、それしか見えない」と言われたことがあります。校内研修や授業研究会で、多くの先生方で同じ授業を見せていただいた時こそ、「どんな視点で見ているのか?」「自分は気づかなかったけど、そんな視点もあったのか」など、授業を見る視点を磨き、「じゃあ、自分の授業でもやってみよう」とつなげていくことにもつながっていきます。授業を見せていただくときに、目的を持ち、「どこを見る?」「どう見る?」という学びとヒントを、佐々木先生の資料から学ぶことができます。ステキな資料を、ありがとうございます。